

令和 4 年 6 月 20 日現在

機関番号：23804

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00131

研究課題名(和文) 19世紀市民音楽文化とオペラ編曲

研究課題名(英文) 19th-Century Music Culture of the Middle Classes and Opera Paraphrases

研究代表者

上山 典子(Kamiyama, Noriko)

静岡文化芸術大学・文化政策学部・准教授

研究者番号：90318577

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：オペラに基づくピアノ用の編曲(オペラ・ファンタジー、変奏曲、パラフレーズ、そしてオペラのある特定の場面に基づく編曲など)の取り組みとそれら編曲譜の出版事情に注目することで、19世紀前半の人々の音楽生活でオペラ編曲譜が果たしていた大きな役割を明らかにした。オペラ編曲作成の目的は、多くの場合、深淵でシリアスな芸術的作品を提供することではなく、ピアノで人気の旋律をカンタービレに「歌う」こと、ピアノの楽器としての可能性を示すこと、そして音楽愛好家の耳に心地よい音楽を届けることであり、ブルジョワ階級をはじめ、アマチュア演奏家の音楽生活で多くの需要を得ていたのである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は19世紀前半ヨーロッパの様々な都市に出回ったピアノのためのオペラ編曲譜を取り上げ、それらが音楽を身近に楽しむ市民階級の間で、彼らの音楽生活を豊かに彩る大きな役割を果たしていたことを明らかにした。とくに、音楽史の博物館に殿堂入りした芸術家の芸術作品だけでなく、後世の美的価値や歴史評価の陰に隠れてきた、しかし当時は音楽界の中心ジャンルだったもの(例えばグランド・オペラ)や、ヨーロッパ中で名声を博した編曲者(例えばターヘルベルク)の作業にも目を向けたことで、19世紀市民階級の日常音楽生活における編曲の実態に迫ることができた。

研究成果の概要(英文)： This research, by focusing on opera arrangements for piano (such as opera-fantasies, -variations, -paraphrases, and arrangements of certain scenes from operas) and the publication of them from various cities, reveals the role the arrangements played in the musical lives of people in the first half of the 19th century Europe. In almost every case, the purpose of these arrangements was not to provide great profundities and serious artworks, but to "sing" popular melodies of the operas in cantabile on the piano, to show the piano's potential as an instrument, and to bring pleasant music to the general ears of music lovers. They were much in demand in the musical lives of amateur musicians of the bourgeoisie.

研究分野：音楽学

キーワード：オペラ編曲 19世紀 ブルジョワ市民階級 ピアノ 編曲譜

## 1. 研究開始当初の背景

19 世紀前半は西洋音楽史上、編曲がもっとも興隆した時期である。多種多様な演奏形態の編曲が作られ、楽譜出版業の拡大と共に、市場には無数の編曲譜が出回った。なかでも楽器としてのピアノの改良と普及、ヴィルトゥオーソ・ピアニストの登場、公開演奏会の発達に音楽サロンの流行といった様々な要因を背景に、この編曲黄金期を支えたのは明らかにピアノのための編曲で、親しみやすい旋律や人気の場面に基づくオペラ編曲(パラフレーズ、ファンタジーを含む)はその花形だった。こうした編曲の第一の使命は、原曲の形で聴くことの出来ない同時代の曲をより多くの人々に届ける作品普及とされたが、やがてそれは当初の目的とは必ずしも関係なく、家庭にピアノを持つ裕福な中産階級の子女や音楽愛好家らの楽譜購買意欲に応える市場の人気商品となり、ピアニストにとっては演奏会やサロンで欠くことの出来ない曲目となっていった。しかしこんにちの音楽学研究のテーマとして、また演奏会レパートリーとして、これらの編曲が注目されることはあまりなかった。

そこで本研究は、現在ではその音楽的評価の低下に苦しむグランド・オペラの編曲や、ピアニスト兼作曲家として当時は一世を風靡したタールベルクの編曲活動を中心テーマに、19 世紀市民階級の日常音楽生活における編曲の実態に迫ることを目指した。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、フランス革命以降のブルジョワ市民階級の台頭を背景に、ピアノのためのオペラ編曲が 19 世紀前半の音楽市場で果たした役割を明らかにすることであった。そこで当時のヨーロッパ音楽界を席卷したグランド・オペラを出発点に、1) 様々な音楽家が取り組んだ編曲の整理と内容の考察、2) 楽譜出版と販路の調査、3) 公開演奏会やサロンにおける編曲レパートリーの分析、4) 市民階級による楽譜購入の状況調査を行うことで、供給者 = 流通業者 = 需要者のすべてに利をもたらしたオペラ編曲の生産・流通・消費のサイクルを明確なものとした。それにより、我々がより創造的と認識してきたオリジナル作品( = 原曲) よりもはるかに多くの編曲がはるかに広範囲で出回り、はるかに多くの人々の家庭、演奏会、サロンでの音楽生活を豊かに彩っていたこと、また、こうしたオペラ編曲が市民音楽文化の発展と興隆を支える不可欠な役割を果たしていたことに光を当てることになった。

## 3. 研究の方法

研究の方法は以下 4 点を主軸に行った。1) 「生産」の状況把握として、どの音楽家が、どの曲の編曲に、どのようなレベルの音楽リテラシーを有する人々を念頭に取り組んだのか、2) 「流通」の実態調査として、それぞれの編曲譜がヨーロッパのどの都市で出版され、3) 演奏会やサロンでどのような頻度で演奏されていたのか、4) 「消費」の動向調査として、編曲譜をどのような社会階層が購入し、彼らの音楽生活でどのように使用されていたのか。具体的には、19 世紀前半に作成されたオペラの編曲(比較対象として歌曲や交響曲ジャンルの編曲も含む)を調査し、編曲譜の出版状況を、原曲のパート譜や総譜の出版と比較した。また、音楽的特徴、難易度、編曲方法を分析することに加えて、献呈者、序文、価格、紙質や模様といった装丁なども確かめた。さらには、演奏会の告知文書や関連記事を当時の音楽雑誌・新聞から探し出すとともに、演奏会レビューを参考に、こうした編曲の演奏が対象とした聴衆の層と演奏の頻度、聴衆の人気と世間の評価についても考察した。

#### 4. 研究成果

2018 年度：リストが四半世紀以上の長きにわたり取り組んだ、友人ワーグナーのオペラ編曲全 15 曲を調査対象とし、それらの編曲手法の変遷を追い、以下の論集に寄稿した。「ワーグナー＝リストのオペラ編曲」、『ワーグナーシュンポシオン 2018』日本ワーグナー協会編、アルテスパブリッシング、2018 年、16-32 頁。また、グランド・オペラの代名詞的作品であるマイヤベーアの《悪魔の口ベール》の編曲を考察対象とした。様々な演奏レベルを想定して様々な編曲家が作成したピアノ用の編曲譜が、家庭、演奏会、サロンなど、ブルジョワ市民が出入りする場所で大量に消費されていた実態に光を当てた。この点に関する論考は、以下に収録された。第 1 部 第 5 章「グランド・オペラとピアノ編曲 近代市民社会におけるオペラの流通」、澤田肇ほか編『《悪魔の口ベール》とパリ・オペラ座 19 世紀グランド・オペラ研究』上智大学出版、2019 年、118-140 頁。

2019 年度：オペラ編曲と並び重要な編曲ジャンルとして、「歌曲編曲」の存在が浮かび上がってきた。そこでリストによるシューベルトの歌曲編曲、計 55 作品にも注目した。それは当初シューベルトの作品普及が目的だったが、原曲者の名声に加えて、出版各社の販売も大いに促進させるという効果をもたらした。これらの歌曲編曲は極めて高度な演奏技術が必要にもかかわらず、ブルジョワ階級、音楽愛好家たちの購買力に支えられ、ヨーロッパ各地の出版社に大きな利益をもたらす大人気商品となった。

また、創作面に注目してみると、リストはシューベルトの（連作）歌曲集の編曲を通して、調に基づく規則的配列のピアノ・ツィクルス形成の実験を行っていた。最初に取り組んだ《12 の歌曲集》に規則性はなかったが、続く《白鳥の歌》と《冬の旅》ではいずれも原作の曲順を大幅に変更し、一部の曲の調を変更することで、3 度を基本とする配列を達成させていた。そしてこれら一連の歌曲編曲の後、自身のオリジナル曲に対してもこのツィクルス形成の原理を適用させていったことが明らかとなった。この成果は、次の論集に所収された。第 6 章「リストのピアノ・ツィクルスにおける 3 度調配列」、共編著『音楽を通して世界を考える』、土田英三郎ゼミ有志論集編集委員会編、東京藝術大学出版会、2020 年、446-462 頁。

2020 年度：19 世紀前半のヨーロッパを代表するヴィルトゥオーソ・ピアニスト兼作曲家の一人、ジキスモント・タールベルクによるオペラ編曲に注目した。現在ではほとんど注目されることのないタールベルクだが、当時の市民音楽文化を牽引し、オペラ編曲の作成、演奏、出版によって、音楽文化史に大きな功績を残していたことを確認した。

具体的には、タールベルクが存命中に出版したオペラ編曲合計 57 曲を考察対象とした。結果として、こうしたオペラ編曲の目的は、深淵でシリアスな芸術的作品を提供することではなく、ピアノでカンタービレに「歌う」こと、ピアノの楽器としての可能性を示すこと、そして音楽愛好家の耳に心地よい音楽を届けることであったことが明確になった。またこれらの編曲作成には、市民階級や音楽愛好家に対する啓蒙や教育的意図が少なからず含まれていたことも、興味深い発見となった。タールベルクに関する成果は、以下の通り。「オペラ編曲家としてのタールベルク」、『静岡文化芸術大学研究紀要』第 21 号、2021 年、41-51 頁。

2021 年度（新型コロナウイルス感染症という事情から、研究期間の 1 年延長を申請した）：本研究の最終年度は、編曲興隆期に活動したベートーヴェンの作品に基づく編曲（ベートーヴェン自身が手がけた編曲ではなく）に注目した。まずはベートーヴェン唯一のオペラ《フィデリオ》op.72 の編曲流通状況の調査を行い、多種多様な編成の編曲譜が複数の出版社から送り出されていたことを把握した。ピアノ 2 手用に限らず、ピアノ連弾用（4 手用、2 台用など）、室内合奏

版、ギター伴奏付等々、その多くは音楽愛好家やアマチュア奏者など市民階級向けの編成と思われるものだった。またオペラ編曲との比較の意味で、ベートーヴェンの交響曲の編曲流通状態についても整理を行った、現時点で《フィデリオ》については編曲譜のすべてを入手することができておらず、全容を確認出来ていないが、交響曲の編曲流通については、以下にまとめた。「編曲市場に流通したベートーヴェンの交響曲」『東邦音楽大学・東邦音楽短期大学研究紀要』第31巻、2022年。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 上山典子	4. 巻 21
2. 論文標題 「オペラ編曲家としてのタールベルク」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『静岡文化芸術大学研究紀要』	6. 最初と最後の頁 41-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 上山典子	4. 巻 31
2. 論文標題 「編曲市場に流通したベートーヴェンの交響曲」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『東邦音楽大学・東邦音楽短期大学研究紀要』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計3件

1. 著者名 土田英三郎ゼミ有志論集編集委員会編（共編著、分担執筆：上山典子）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京藝術大学出版会	5. 総ページ数 640p.（執筆部分 pp.446-462）
3. 書名 第6章「リストのピアノ・ツィクルスにおける3度調配列」、『音楽を通して世界を考える 東京藝術大学音楽学部楽理科土田英三郎ゼミ有志論集』	

1. 著者名 日本ワーグナー協会編、（分担執筆：上山典子）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 アルテスパブリッシング	5. 総ページ数 172p.（執筆部分 pp.16-32）
3. 書名 「ワーグナー＝リストのオペラ編曲」、『ワーグナー＝シュンボシオン2018』	

1. 著者名 澤田肇ほか編、(分担執筆: 上山典子)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 上智大学出版	5. 総ページ数 371p. (執筆部分 pp.118-140)
3. 書名 第1部 第5章「グランド・オペラとピアノ編曲 近代市民社会におけるオペラの流通」、『《悪魔の口ペール》とパリ・オペラ座 19世紀グランド・オペラ研究』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------